

(59)

氏名(生年月日)	ナカ 中	サコ 迫	トシ 利	アキ 明
本 籍				
学位の種類	医学博士			
学位授与の番号	乙第811号			
学位授与の日付	昭和62年3月20日			
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)			
学位論文題目	膵頭部癌の切除範囲に関する病理組織学的研究 一特に膵全摘術の適応について一			
論文審査委員	(主査)教授 羽生富士夫 (副査)教授 武石 詢, 教授 石井 哲夫			

### 論 文 内 容 の 要 旨

#### 目的

膵頭部癌に対する手術術式の選択に関しては膵全摘を基本術式とする施設あるいは膵頭切除を基本術式とする施設とさまざまで、いまだ明確な基準がないのが現状である。そこで著者は病理学的見地から膵全摘の適応基準を確立すべく膵頭部癌(膵管癌)80例を対象に膵全摘の適応を左右する、1. 癌腫の膵内連続性進展、2. 膵内非連続性癌病巣および、3. 膵癌取り扱い規約に則って脾門部リンパ節(No. 10)、脾動脈幹リンパ節(No. 11)および下膵リンパ節(No. 18)への転移状況の3点について検討した。

#### 対象および方法

1968年1月から1984年12月末までに東京女子医科大学消化器病センターで経験した膵頭部癌切除115例のうち病理組織学的検討が可能であった膵全摘17例および膵頭切除63例、あわせて80例を対象にした。切除標本を20%ホルマリンで固定後切除腔を5mm間隔の連続全割切片にし、同時に摘出されたリンパ節を膵癌取り扱い規約に則って分類し、これらを Hematoxylin-Eosin 染色後光顕的に観察した。

膵全摘例については、1. 癌腫の膵内連続性進展、2. 膵内非連続性癌病巣および膵管上皮の異型度、3. リンパ節転移状況を、膵頭切除例については、1. 膵切除断端癌遺残の有無、2. リンパ節転移状況といった膵全摘の適応にかかわる病理組織学的因子を検討した。

#### 結果

1) 膵全摘17例の検討：

1. 癌腫の尾側への高度の膵内連続性進展は6例(35.3%)に認められた。

2. 膵内非連続性癌病巣あるいは主病巣から遠く離れた部位に膵管上皮の高度異型は1例も認められなかった。

3. 癌腫が膵頭部に限局した場合 No. 10, No. 11あるいは No. 18のリンパ節のいずれかへの転移が認められたのは2例(11.8%)であった。

#### 2) 膵頭切除63例の検討：

1. 膵切除断端癌遺残は12例(19.0%)に認められたが、うち3例は切除線上には癌細胞は認められなかった。

2. No. 10, No. 11, No. 18のリンパ節のいずれかへの転移が認められたのは2例(3.2%)であった。

#### 考察および結論

膵全摘17例および膵頭切除63例あわせて80例の膵頭部癌(膵管癌)を対象として病理組織学的検討をおこない膵全摘の適応にかかわる病理組織学的因子—主として1. 癌腫の膵内連続性進展、2. 膵内非連続性癌病巣および、3. リンパ節転移、特に No. 10, No. 11, No. 18への転移の3点—を検討し以下の結論を得た。

1. 癌腫の膵内連続性進展からみて膵頭部癌に対する膵全摘の適応があったと考えられたのは膵全摘17例のうち6例と膵頭切除63例のうち9例あわせて80例中15例(18.8%)で癌腫の膵内連続性進展が膵全摘の適応を左右する最も大きな因子であった。

2. 膵内非連続性癌病巣は膵全摘17例中1例も認め

られず諸家の主張に反しその頻度は低いと考えられた。

3. 脾門部リンパ節, 脾動脈幹リンパ節および下腓リンパ節のいずれかへの転移は癌腫が膵頭部に限局する場合自験80例中4例(5.0%)にすぎずその頻度はきわ

めて低くリンパ節郭清の目的での膵全摘は無意味と考えられた。

従って, 癌腫の膵内連続性進展に関し術中迅速病理組織診にて膵切除断端癌浸潤の有無の検索をすることにより膵全摘の要否の決定ができると考えられた。

## 論文審査の要旨

本研究は膵頭部癌に対する膵全摘の要否を決定する病理組織学的因子について, 膵全摘17例および膵頭切除63例あわせて80例の膵頭部癌(膵管癌)を対象に検討し, 癌腫の膵内連続性進展(80例中15例, 18.8%)が膵全摘の適応を左右する最も大きな因子であることを, また膵内非連続性癌病巣(膵全摘17例中0例, 0.0%)および脾門部, 脾動脈幹, 膵下縁リンパ節への転移(80例中4例, 5.0%)の頻度はきわめて低いことを明らかにしたもので, 膵頭部癌に対する手術術式を選択する上で学術上価値あるものと認める。

### 主論文公表誌

膵頭部癌の切除範囲に対する病理組織学的研究—特に膵全摘術の適応について—

日本消化器外科学会雑誌 第19巻 第12号  
2382~2389頁(昭和61年12月発行)

### 副論文公表誌

- 1) 膵癌の初期像, 症例診断1  
腹部画像診断 16(3) 239~243(1986)
- 2) 大量出血をきたした大腸動静脈瘻(Arterio-venous-Malformation)の1治験例  
日本大腸肛門病会誌 38(1) 37~42(1985)

- 3) 胆管への逸脱により胆管閉塞をきたした早期のポリープ状胆嚢癌の1例  
胆と膵 7(4) 441~445(1986)
- 4) 胆嚢癌の拡大手術  
肝胆膵 10(4) 585~592(1985)
- 5) 肝内結石症における肝切除の意義  
胆と膵 5(12) 1641~1647(1984)